

オガレ! ACE

ものづくり産業広報誌

2018.9
Vol. 18

特集 仕事図鑑

ものづくりにかける

ようこそ宮城へ!
CKD 株式会社

技の肖像
靴職人
あかまつ
赤松 まゆみさん

report 技能士を育てる。
株式会社竜門園

みやぎものづくり女子
株式会社サスティナライフ森の家
さとうあさみ
佐藤 麻美さん

あすを拓く
日本製紙株式会社
かわさきまさゆき
河崎 雅行さん

ものづくり産業広報誌 オガレ! ACE Vol.18 発行:宮城県(産業人材対策課) 編集:ハルウコミュニケーションズ株式会社

厚生労働省委託 若年技能者人材育成支援等事業

広告

若年技能者の人材育成・技能継承をお考えの事業主・教育機関等の皆様へ

学びの環境づくりから未来の人材育成へ!

ものづくりマイスター制度

ものづくりの魅力を伝える ものづくりフェスタ in みやぎ

8月4日から6日に、「ものづくりフェスタ in みやぎ 2018」が夢メッセみやぎ(仙台市)で開催されました。

和裁や洋裁、左官や畳など、参加した20団体のブースにものづくり体験コーナーが設けられ、会場を訪れた小中学生が、ものづくりマイスターの説明を受けながらものづくりを楽しみました。

宮城県建具業連合会のブースで「木琴づくり」に挑戦した児童は、「先生に教えてもらって、上手に作ることができました。



音がちゃんと出たのでうれしいです。家でも演奏して遊びたいです」と笑顔で話しました。

同イベントは、技能者の作品の展示、実演、ものづくりの体験などを通じて、技能と生活の関わりや技能の素晴らしさについて知ってもらおうと毎年開催されているものです。



マイスターの声



高平木工所 高平 厚先生

体験教室を通じて、現在の子どもたちがまじめに丁寧に作業をする姿を見てとても驚いています。これから子どもたちに、ものづくりの魅力や表具の大切さを伝えられるように、取組を続けていきたいと思っています。

小中学校にもものづくりマイスターを派遣します

「ものづくりマイスター制度」を活用した、ものづくり体験教室の受け入れを随時行っています。マイスターの優れた技に直接触れ、ものづくりの仕事を知る良い機会です。是非お問い合わせください。

【対象者】 宮城県内の小中学生

【費用】 マイスターに対する謝金、旅費、材料費等は、宮城県技能振興コーナーが負担します。

【体験職種】

からくり屏風製作(表具職種)、ミニ畳製作(畳職種)、銅板レリーフ製作(板金職種)、壁塗り体験(塗装職種)、サインアート(広告美術職種)、ミニ竹垣製作(造園職種)、踏み台製作(建築大工職種※仙台市内限定)、ポシット製作(洋裁職種)、レッスンバッグ製作(洋裁職種)、お弁当袋製作(洋裁職種)、畳縁で小物入れ製作(洋裁職種)、タオルのペットボトル入れ製作(洋裁職種)

まずは、
宮城県技能振興コーナー

までお問い合わせください。

TEL.022-727-5380

FAX.022-727-5381

宮城県技能振興コーナー 検索

次号予告

オガレ! ACE Vol.19 は、2018年12月発行予定です。

オガレ! ACEはウェブサイトでも
ご覧いただけます



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



この印刷物は、輸送マイルージ低減によるCO2削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷し、印刷用の紙へリサイクルできます。

発行=宮城県(産業人材対策課)
編集=ハルウコミュニケーションズ株式会社

本冊子は12,000部作成し1部あたりの単価は231円です。

ものづくりにかける

特集 仕事図鑑

宮城県内のものでづくり企業では、どのような製品が作られ、どんな仕事をしている人がいるのか。現場で働く4人のエースの姿と生声から、宮城のものでづくりの「いま」を紹介します。



株式会社イエムラ
真壁 尚紀さん



アイシン高丘東北株式会社
中米 宏次朗さん



東北電子産業株式会社 利府事業所
津田 光太郎さん



宮城製粉株式会社
一條 和則さん



ようこそ
宮城へ!

むすひ丸



CKD株式会社 東北工場（大衡村）

CKD株式会社は、1943年に日本航空電機株式会社として設立し、1945年に中京電機株式会社へ社名を変更。真空管製造装置や蛍光灯製造装置などの開発・設計・製造からスタートしました。愛知県小牧市に本社を置き今年で創立75周年を迎える当社は現在、140商品群の自動機械装置や7000商品群の空気圧機器・流体制御機器など合計数十万アイテムを製造。自動車・家電・半導体・医薬・食品などあらゆる産業分野の自動化に貢献する機械メーカーです。

商品群の多くは、一般の人の目に触れにくいものですが、ものづくりの自動化（FA=Factory automation）には欠かせない「縁の下力持ち」として活躍しています。

当社は10年ビジョンとして、「世界のFAトータルサプライヤー」を目指すことを掲げました。

販売拠点として、国内はもちろん、ヨーロッパや北米、中南米、アジアまでを網羅したネットワークを構築し、2016年にはオランダに販売子会社を、

アメリカのシリコンバレーにテクニカルセンターを設立。世界中のより多くのお客様に対して、充実した商品およびサービスの提供を目指しています。

また、生産拠点としては、東海地方を中心とした6つの国内工場、海外はアジアに5工場があり、2018年12月に大衡村の第二仙台北部工業団地内に竣工を予定している「東北工場」は、国内7番目の新たな工場となります。当社グループとして初めてとなる東北進出を宮城県で決定した主な理由は、①BCP事業継続計画の高度化、②生産能力の拡大、③復興支援です。

東北工場は、「人にやさしい」コンセプトに掲げ、当社の既存工場の良いところは踏襲し、改善すべきところは進化（新化・深化）させて設計されています。自動倉庫やクリーンルームなどを備え、国内生産の「翼を担う新工場」としての真価を発揮したいと考えております。

従業員が笑顔で生き生きと仕事ができるような工場を目指し、着々と準備が進んでいます。

オガーレ! ACE

Vol.18

01 ようこそ宮城へ!
CKD 株式会社 東北工場

02 特集・仕事図鑑
ものづくりにかける

[CASE.1]

製造
真壁 尚紀さん
株式会社イエムラ

[CASE.2]

製造
中米 宏次朗さん
アイシン高丘東北株式会社

[CASE.3]

設計
津田 光太郎さん
東北電子産業株式会社 利府事業所

[CASE.4]

製造
一條 和則さん
宮城製粉株式会社

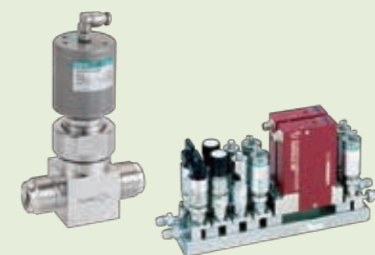
15 技の肖像
靴職人
赤松 まゆみさん

16 report 技能士を育てる。
株式会社竜門園

17 みやぎものづくり女子
株式会社サスティナライフ森の家
佐藤 麻美さん

19 あすを拓く
日本製紙株式会社
河崎 雅行さん

21 NEWS BOX



所在地/本社：愛知県小牧市広時2-250
東北工場：
黒川郡大衡村 第二仙台北部工業団地内
<https://www.ckd.co.jp/>
代表取締役社長/梶本 一典
資本金/110億1,600万円
従業員数/2,248人（2018年3月現在）
事業内容/自動機械装置及び省力機器、空気圧制御機器、駆動機器、空気圧関連機器、ファインシステム機器、流体制御機器など機能機器の開発・製造・販売・輸出



さまざまな建築物に使われている 株式会社イエムラのステンレス製品

建築物に使用するステンレス製の建材を製造する同社。建築物のデザインや用途に合わせ、高い技術力で加工した特注品を、宮城県内のさまざまな施設で見ることができます。

1 みやぎ産業交流センター「夢メッセみやぎ」(仙台市)

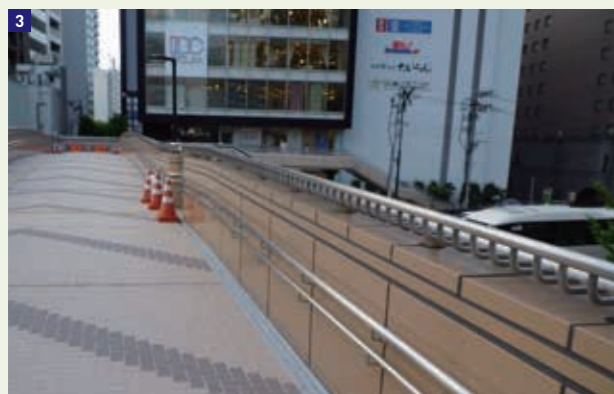
東日本大震災で津波の被害を受けた1階部分の出入口の扉や窓枠の修復を同社が担当。わずか3カ月で完成させた

2 東北歴史博物館 (多賀城市)

入り口に通じる通路に、新たに風よけとして設置されたサッシの製造を行った

3 仙台駅西口「ペDESTリアンデッキ」(仙台市)

広場と横断歩道橋の機能を持った歩行者専用的高架建築物をペDESTリアンデッキといい、転落防止のために取り付けられている手すりの製造を同社が担当している



駅など、たくさんの方が利用するさまざまな場所にイエムラの製品が設置されているんです」と真壁さんは誇らしそうに話した。

**自分の作業と先輩のサポートを両立
多くの作業を経験して腕を磨く**

入社6年目の真壁さんは現在、製品の組み立て加工や塗装、仕上げなどを行う「後工程」を担うグループに所属している。上司から任せられた製品の加工を行いつつ、ほかの製品を作っている先輩社員から声がかかると、作業のサポートに回る。時には、材料に使うステンレス板の切断や曲げなどの加工を行う「前工程」を担うグループを手伝う場合もあるという。

少数精鋭、チームワークが強みの同社では、若手社員が1日にさまざまな作業に関わるのは当たり前のこと。「いろいろなことを先輩から直接教えてもらおうことで、新しい仕事を覚える良いチャンスになっています」と真壁さんは話す。

幼い頃にブロック遊びで夢中になり、高校生の時には趣味でオーディオ機器を自作したこともあった。そんな真壁さんが「ものづくりの仕事をするのもいいな」と漠然と考えるようになったのは高校3年生の夏、高校生対象の合同企業説明会の会場で同社のブースを訪れたときだったという。

「社長が会社の説明をしながら金属の部品を組み立て、製品のミニチュア模型を完成させた光景が、とても印象に残りました

た。「こんなすごいものを自分も作ってみたい!」と思い、就職を決めました」と振り返る。

**「達成感」が成長を後押し
オンリーワンのものづくりに喜びを感じる**

ものづくりに興味があったとはいえ、仙台西高等学校の普通科で学んだ真壁さんにとって、入社当初はすべてが初めての経験だった。

「先輩から渡された図面を見ても、最初はどっちが上かさえも分かりませんでした。職場にある大型の機械はもちろん、工具も初めて触るものばかり。そんな自分がここで仕事をするのができるのか、とても不

企業情報

株式会社イエムラ

所在地 / 名取市飯野坂字南沖 67-1
TEL 022-384-5310
<https://www.sus-iemura.co.jp/>

代表取締役社長 / 家村 秀也
資本金 / 3,000万円
設立 / 1994年7月
従業員数 / 20人(2018年8月現在)
事業内容 / ステンレス製建材の設計、製造、施工
経営理念 / 私たちは世界中の家族を守るために、家族を守れるヒトとモノをつくり、それを地球に残すことで社会に貢献します。



仕事
図鑑

CASE

01

まちの未来に足跡を残す 建築用ステンレス製品

製造
真壁 尚紀さん(25歳)

株式会社イエムラ(名取市)

7月のある朝、真壁尚紀さんは長さ数メートルのステンレス製の建材に穴を開ける作業に取り掛かった。作っているのは、エレベーターの乗降口に取り付ける枠の部分。真壁さんは、電動ドリルを使って建材を固定するボルトを通す穴を一つ一つ正確に開けていった。

「どんなに慣れている作業でも、油断によるミスやけがをしないように、慎重に行うことを心掛けています。作業に取り掛かる前に手順を決めておいて、それに従って進めています」

良いものづくりのポイントは、事前に行う入念な段取りと、作業中のこまめな確認だと真壁さんは話す。

「それと、身の回りの整理整頓も大切ですね。周囲が散らかっていると、集中して作業ができないため、仕事の出来ばえに影響してしまうんです」

株式会社イエムラは、東北地方を中心に、建築物に使われるステンレス製のドアやサッシ、手すりなどの製品を手掛けている。企画・設計から製造、施工までをワンストップで対応できることから、特殊な形状をした特注品でも短期間で納めることが可能。依頼主である建設業者や大手サッシメーカーなどから、厚い信頼を寄せられているという。

「大型ショッピングモールや公共施設、



製品がまちで輝く姿を想い
誠心誠意ものづくりに打ち込む

ステンレス製の建材に電動ドリルを使って穴を開ける真壁尚紀さん



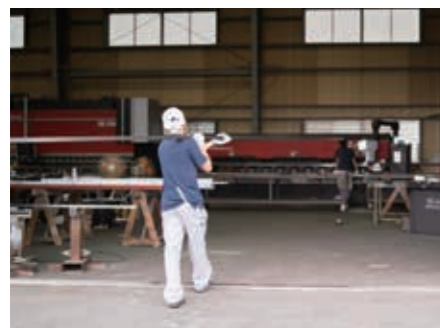
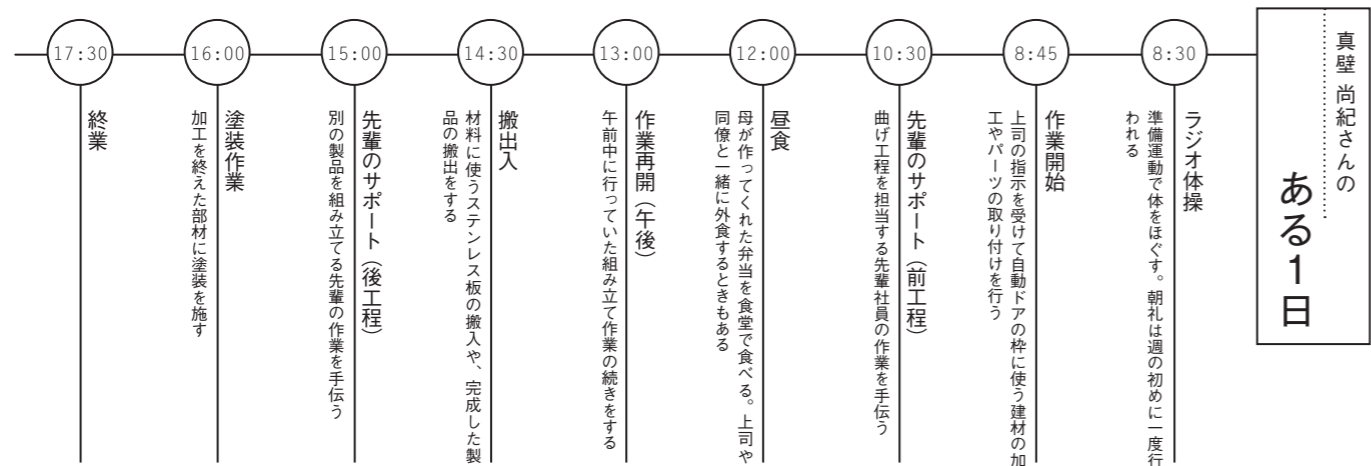
組み立てた材料を溶接してつなぎ合わせる



金属を折り曲げる機械で、慎重にステンレス板に曲げ加工を施す



操作盤に数値を入力し、機械を使ってステンレス板をカットする



次の作業に使う材料を担いで自分の持ち場へ運び込む



さび止め剤や塗料を吹き付けて製品を塗装する



図面を見ながら、上司の鈴木さんと作業方法について打合せをする

**未来のACEへ
先輩からの
アドバイス**

社会人になって大切だと感じたことは、人とのコミュニケーションです。私が働いている会社では、先輩の作業を手伝いながら仕事のことを教えてもらう機会が多いため、特にそう思います。

私はどちらかと言えば、人とコミュニケーションを取ることが苦手です。そのため、人の輪の中に積極的に入ろうと、毎日のあいさつはもちろん、休憩時間でも先輩や後輩と話をするように心がけています。そのときは、趣味やスポーツなど仕事以外のことを話すように意識しています。

みなさんも、就職先ではコミュニケーションを大事にしてください。そうすれば、仕事の悩みや分からないことがあっても、先輩に相談しやすくなるはずです。そして、新しくできることが増え、仕事が楽しく感じられるようになると思います。



上司に聞く

製造部 鈴木 孝博さん

「後輩」の存在を意識してこれからも挑戦を

任された仕事にひたむきに取り組む姿勢を評価

自分に与えられた仕事や、先輩の手伝いに入る様子を見てみると、指示通りに一生懸命取り組んでいるなど感じています。この仕事は、数年で何でもできるようなものではないかもしれませんが、入社6年目の真壁君にとって、覚えなくてはならないことはまだまだたくさんあります。先輩の仕事を見ながら、これからも多くのことを吸収して、成長していつてくれると期待しています。

その一方で、真壁君には後輩ができ、教える立場にもなりました。これまで身に付けた知識や経験を後輩たちに伝えていってほしいと思っています。

そして、後輩から追われる身でもあるので、現状で満足することなく、危機感と緊張感をもって仕事に向き合うことが大切です。失敗を恐れず自分の考えで積極的に行動することを心掛けて、より責任ある仕事を任されるような人材に育ってほしいことを願っています。

最近、真壁さんが関心を寄せているのが前工程の仕事だ。図面を見ながらステンレス板に印をつけて、複雑な形に手際良くカットする。これを機械で曲げ加工を施し、図面通りの製品に仕上げていく。

1枚の板から、どうしたらこんなに複雑な形の製品を作ることができるのだろうか……。先輩たちの作業を手伝い、目の前で練り広げられるその仕事ぶりを見て、いつも驚いているという真壁さんは、「いつか自分も先輩たちのように仕事ができるようにになりたいです」と話した。

現在、架け替え工事が進められている、仙台駅西口周辺のベダストリアンデッキ。同社は、手すりの製作を手掛けており、真壁さんも曲げ加工や仕上げ磨きなどの作業を手伝っている。

「独特な形状の手すりなので、想像以上に大変な作業です。それだけに、完成した製品を取り付け現場へ送り出すたび、ホッとします」

ある休日に仙台駅周辺へ出かけたとき、架け替えが終わったデッキに、自然と足が向いた真壁さん。「実際に手すりに触れ、今の仕事に対する誇りと、新たな仕事への情熱がわいてきました」と話す。

「作ったものがずっと形に残る仕事は、やっぱりいいですね」と笑顔で語る表情には、充実感が満ちあふれていた。



完成した製品を使って、工場長から加工のテクニックについて詳しく説明を受ける。経験豊富な先輩社員のアドバイスは、真壁さんにとって学ぶべきことばかりだという

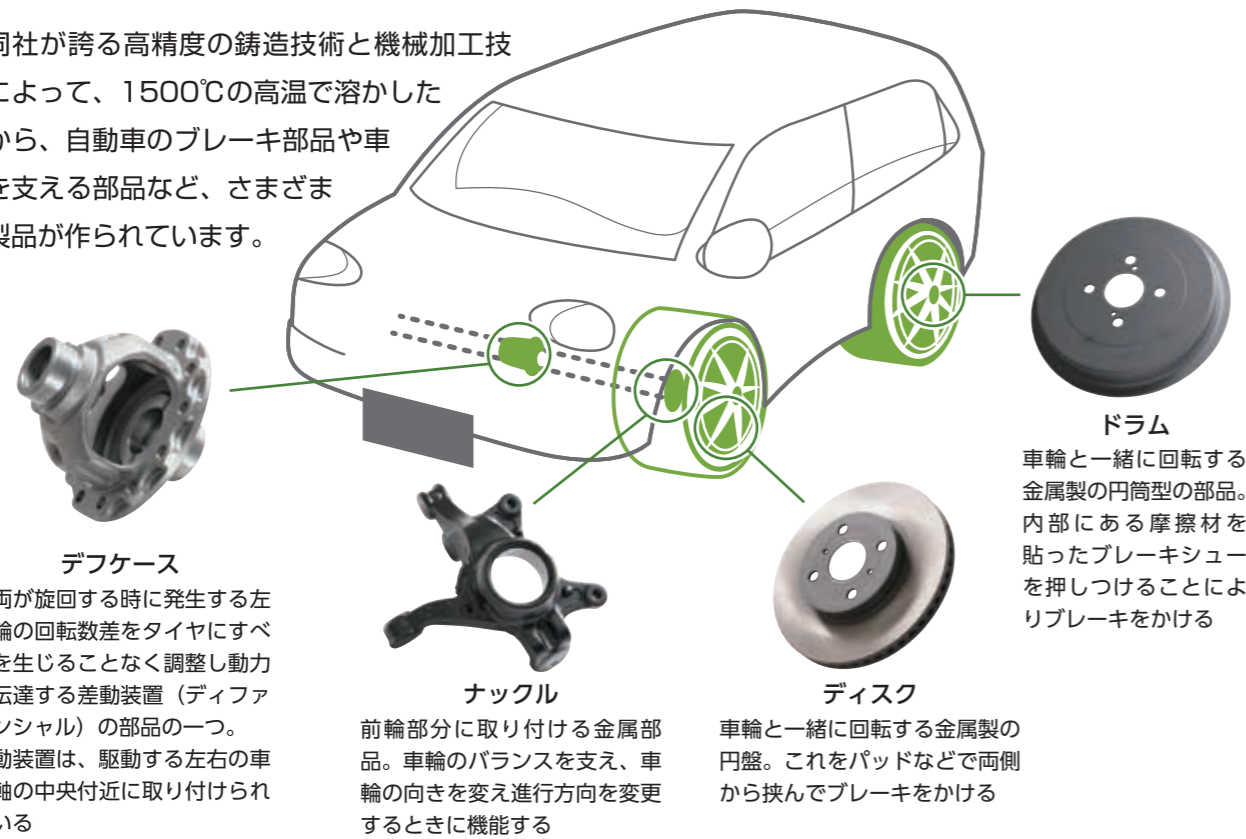
CASE 01 仕事図鑑

まちの未来に足跡を残す 建築用ステンレス製品

製造 真壁 尚紀さん (25歳) 株式会社イエムラ (名取市)

自動車の安全な運転を支える アイシン高丘東北株式会社の鋳造部品

同社が誇る高精度の鋳造技術と機械加工技術によって、1500℃の高温で溶かした鉄から、自動車のブレーキ部品や車輪を支える部品など、さまざまな製品が作られています。



責任やプレッシャーと闘いながら製造ラインと作業者の安全を守る

塗装を終えたブレーキ部品の表面に異常がないか確認する中米宏次朗さん

CASE 02 仕事 鑑

高精度な加工技術で自動車の鋳造部品を製造

製造 中米 宏次朗さん (32歳)

アイシン高丘東北株式会社 (大衡村)

ブレーキ部品の塗装工程で班長を支える「チームサポーター」

塗装されたばかりの自動車のブレーキ部品を手に持ち、中米宏次朗さんは真剣な表情で視線を送っていた。

「ブレーキ部品は、車を安全に制御するために欠かせないパーツの一つ。小さな傷も見逃さないように、こうして人の目で一つ一つ検査しているんです」

中米さんが働くアイシン高丘東北株式会社は、鉄を高温で溶かし、砂型に流し込み冷やすことで金属部品を成型する「鋳造」と呼ばれる方法で、自動車のブレーキ関連部品などを製造。自動車メーカーに高品質で高精度の製品を届けている。

鉄が冷めた後、型を壊して取り出した鋳造部品は、表面を機械で削ったり磨いたりする。さらに、「ディスク」や「ドラム」といった一部のブレーキ部品は、さび止めのために塗装を施す。この塗装工程を担当する中米さんは、工程の責任者である班長を補佐する「チームサポーター」として働いている。

「チームサポーターは、製品の外観検査のほかにも設備の点検や作業員の体調管理など、工程が順調に進むように班長と連携を図りながら、いろいろな仕事をしているんです。気を配ることが多くて大変なポジションですが、広く製造に関わることができるので、やりがいを感じています」と中米さんは話した。

小さな予兆も見逃さない
工程の隅々まで意識を行き届かせる

「ディスク」や「ドラム」を機械加工するラインは8つあり、各ラインで加工を終えた製品が、続々と塗装ラインに到着する。それぞれの製品は、生産計画に従って事前にプログラムされたスケジュール通りに、塗装設備に送り込まれる。塗装はロボットによって自動で行われ、1時間当たり約420個、1日で約7000個のペースで処理されているという。

「トラブルで塗装工程が止まってしまうと、前工程である機械加工のラインすべてに影響が及んでしまいます。それだけに、重大なトラブルの予兆となる小さな異変を見逃さないように心掛けています」

設備の調子が悪くなり保全担当部門に連絡をする際には、「どの部分か」「いつごろから」「どんな症状を」「何回繰り返したか」などについて、正確に伝えなくてはならない。そのため、中米さんはラインを巡回しながらそれぞれの設備をこまめに確認し、トラブルにつながりそうな兆候を逃さず記録しているという。

「各設備の注意点やトラブルの対処法などについて保全担当者から聞いたことは、必ずノートにメモしています。日頃から設備のクセを知っておくことが、ラインの安定した稼働につながると思っていますから」と中米さんは説明する。

こうして、塗装を終えた製品は、最終検

査を経て自動車の組み立て工場へ出荷される。毎日集計される1日の生産数は、中米さんにとってモチベーションにつながっているという。

「自分たちが作った成果が、数字として表れるのがものづくりの良いところ」と話す中米さん。「チームサポーターになってからは、別の塗装チームのことを勝手にライバル視して、『良い製品をたくさん作るぞ!』って燃えているんです」と笑顔で話した。

「大好きなクルマに関わりたい」
期待を胸にもつくりの道へ

高校生の頃、自動車に興味を持ち、「将来はクルマに関わる仕事がしたい」と思っ

企業情報

アイシン高丘東北株式会社
所在地 黒川郡大衡村大瓜字青木 83-2
TEL 022-739-7155
http://www.at-takaoka.co.jp
※アイシン高丘株式会社 HP



代表取締役社長 大橋 健
資本金 4億9,000万円
設立 2009年1月
従業員数 249人 (2018年8月現在)
従事内容 鋳造製品の鋳造・機械加工
企業理念 品質至上で未来の創造



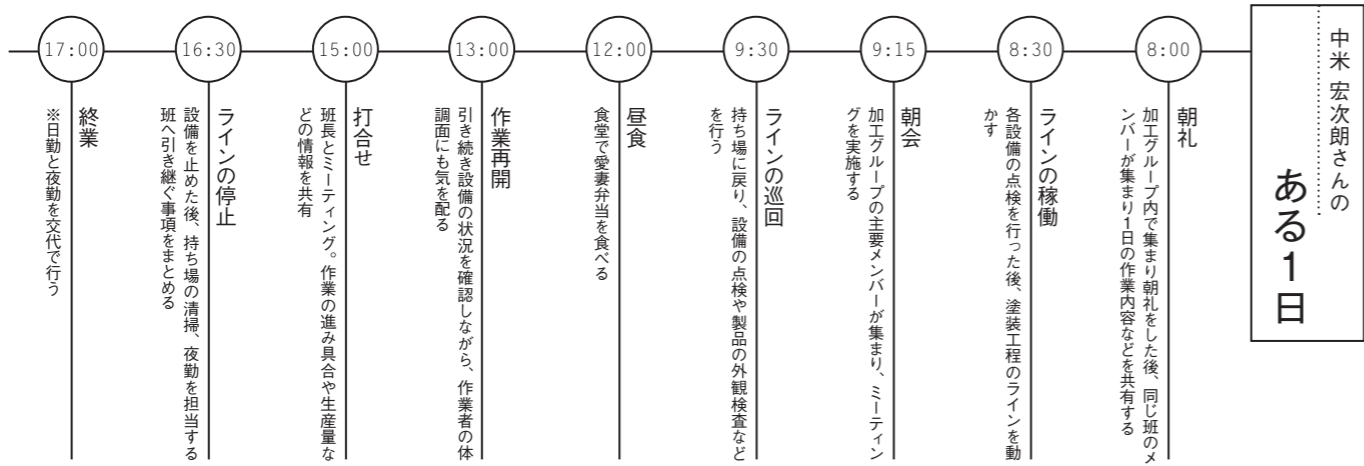
塗装を終えた製品が運ばれる様子を確認。設備に異変がないかチェックする



ロボットがテンポよく製品の表面にさび止めの塗装を施していく



スケジュールに従い製品を塗装する順番を入力する



班長と打合せ。報・連・相を徹底して情報を共有する



保安担当者から設備を管理するポイントなどについてレクチャーを受ける



異変に気が付いたら、機械を止めて詳しい症状を確認する

社員に聞く



加工グループ 加工係 係長 三浦 寿門さん

製造部門の「最後の砦」を守るキーパーソン 広い視野で作業全体を見通す力をつけてほしい

自動車を安全に制動するための部品を作っていることや、絶対に不良品を見逃してはいけない製造の最終工程を任されているという緊張感の中、チームサポーターとしてよく頑張ってくれていると思っています。

チームのメンバーと積極的にコミュニケーションを図り、現場の良い雰囲気を作り出してくれていますし、メンバーの作業上の安全や体調にもこまめに気を配っています。中米くんは、塗装工程の要として円滑なライン稼働に大きく貢献してくれているので、いざれ班長を任せられる逸材だと期待しています。

ただ、持ち前の真面目さが災いして、一つのことにとこだわり過ぎるあまり、肝心なところを見落としてしまう場面が見られます。ものごとをもっと広い視野で見つめ考える力を養い、さらなる成長を成し遂げてほしいと思っています。

ていた中米さんは、利府高等学校を卒業後、ガソリンスタンドへの就職を経て、5年前に同社に入社した。

「転職してもやっぱりクルマに関わりた」と思っていました。だから、クルマの部品を作っているこの会社の求人を見て、就職を決めました。

入社後に物流部門へ配属された中米さんは、1年半後に製造部門に異動し、塗装工程に携わった。

直接ものづくりに関わることになって、さらに期待と喜びを感じた一方で、最終工程に携わった。

「塗装工程での製品の外觀検査は、実質的な最終検査にあたります。ここでキズなどに気付かず製品を出荷してしまうと、組み立て工場から不良品の連絡が入るんです」。こう話す中米さんも、過去に不良品を見逃すミスをした経験があるという。

「異動して半年くらい経ったときのことです。取引先から不良品の連絡を受けたため、ラインをストップさせ、工場にある同じ品番の在庫を全品確認しました。たくさ

んの人たちに迷惑をかけてしまい、かなり落ち込んだことを今でも覚えています」と肩を落とした。

失敗を乗り越えステップアップ 生産性向上に貢献しリベンジを果たす

中米さんは、上司のアドバイスを参考に、より慎重な作業を行うように心掛けた。その努力が実を結び、昨年の1月からはチームサポーターとしての新たなキャリアを築いている。

今年、塗装ロボットの調整を中米さんが行った結果、製品の品質と生産性の向上につながったことがあったという。

「2年前に産業ロボットメーカーが実施する研修会に参加したのですが、そのときに学んだことを現場で生かすことができたとうれしかったですね」と晴れやかに語った。

「もっと経験を積んで、ほかの工程も担当してみたい。そして、これまで以上に広くものづくりに携わりたいと思っています」とさらなる活躍を誓った。

休日、出かけた先で同社の製品を搭載している車種を見つけると、「部品の塗装の状態はどうか…。」と思わず自動車の足回りに目が行ってしまうという中米さん。大好きな自動車に関わる幸せを日々かみしめながら、これからも自動車の安全を支えるものづくりに魂を込める。

CASE 02 仕事図鑑

高精度な加工技術で 自動車の鋳造部品を製造

製造

中米 宏次朗さん (32歳)
アイシン高丘東北株式会社 (大衡村)



ここがACEポイント!

ライン作業のリーダーの仕事は、作業をトラブルなく円滑に進めることが最大のミッションであるが、それ以外にも幅広い業務を行っている。

「意外と重要な仕事だが、作業者の体調の管理です」と中米さんは話す。ラインの状況を見ながら、作業者に休憩のタイミングを指示し、その間は中米さんが代わることもあるという。

設備も人も健康であってはじめて、良い製品を作ることができるのである。



未来のACEへ 先輩からのアドバイス

ものづくりの現場では、仕事に必要な知識や経験を入社してからも十分身に付けることができると感じました。弊社では、研修や教育の仕組みが充実していると思うので、学生のうちから心配する必要はないと思います。

むしろ、就職してから自分でどれだけ多くのことを経験して学ぶことができるかが重要な点だと思います。

ものづくりの一番の魅力は、仕事の成果を実感しやすいことではないでしょうか。また、チームで働くライン作業は、メンバーが協力しながら同じ目標に向かって仕事ができるのが楽しいですね。時に励まし合い、時に刺激し合いながら、自分のスキルを高めることができるので、充実した仕事の時間を過ごすことができると思います。

仕事
図鑑 CASE
03

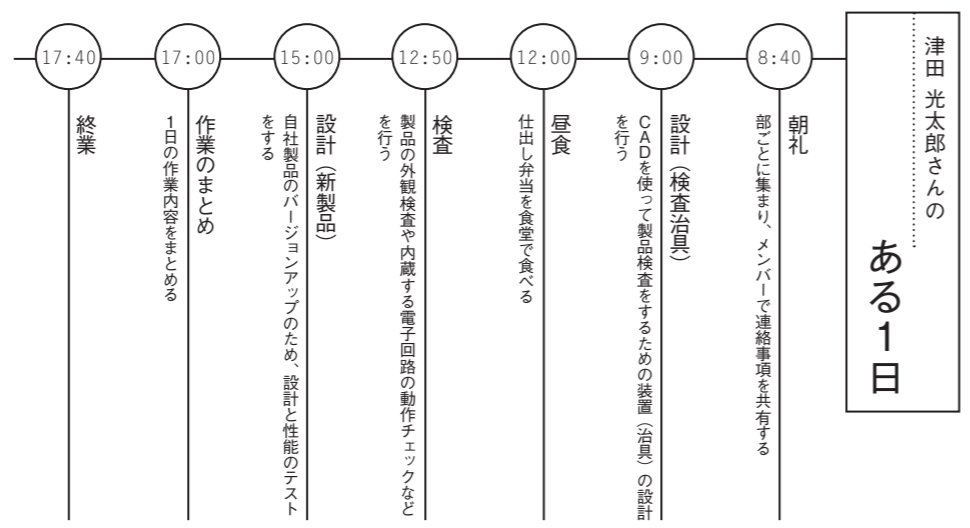
先端技術が光る ユニークな製品を創造

設計
津田 光太郎さん (28歳)
東北電子産業株式会社 利府事業所 (利府町)

独自分野で製品を生み出す
研究開発の一翼を担う

ホタルが放つ光の1万分の1という微弱な光も検出可能な、超高性能の測定装置「ケルミネッセンスアナライザー」。食品や医療など、さまざまな分野で活用され、海外にも輸出されている。

同装置を開発した東北電子産業株式会社は、研究機関向けの特種な計測機器などの設計・開発・製造を得意としている。創業から半世紀にわたり培ってきた研究開発力を武器に、光やエレクトロニクス分野で独自のものづくりを展開する。



試作機を作るために必要な電子部品を確認する



パソコンに向かって設計やテスト結果の解析などを行う



先輩社員から製品の検査方法についてレクチャーを受ける



製品に組み込むレーザー制御機器の性能をテストする



- 1 検査治具の組み立て作業の進み具合について製造担当者と話す津田光太郎さん
- 2 極微弱発光検出装置「ケルミネッセンスアナライザー」。食品の酸化による劣化度を測定する装置として開発された
- 3 自社開発製品「ルミリーフ」。コチヨウランの葉に、蛍光剤を使って文字やイラストを描いたギフト商品。葉へのダメージを最小限に抑える特殊なレーザーを使って蛍光剤を流し入れる技術を同社が開発した



一人一人との対話を大切に
アイデアをカタチにする

企業情報
東北電子産業株式会社
所在地 / 本社：仙台市太白区向山 2-14-1
TEL：022-266-1611
利府事業所：
宮城県利府町しらし台 6-6-6
https://www.tei-c.com/company/
代表取締役社長 / 山田 理恵
資本金 / 6,000万円
設立 / 1968年4月
従業員数 / 50人(2018年8月現在)
事業内容 / 電子応用機器、各種産業用電子計測システム、レーザー制御機器、理化学機器等の開発・製造・販売・輸出入業務
企業理念 / 光と電子の未来を拓く

に興味を持ったという津田さん。プログラムの仕組みをひも解きながら、しだいに「自分も作ってみたい」と思うようになった。こうして、高校を卒業後に東北工業大学の情報通信工学科に入学し、本格的にプログラミングについて学んだ。

就職活動中に参加した企業説明会で、独自の分野でユニークな自社製品を作っている同社に、「面白いことがたくさんできそうな会社だな」と魅力を感じたという。

津田さんの直感通り、入社3年目に同社初のスマートフォンアプリの開発に携わった。現在は、会社の看板製品であるケルミネッセンスアナライザーのグレードアップの研究開発に汗を流す。


「これまでのチャレンジが、仕事に対するモチベーションにつながっています。これからも、多くの経験からたくさんのごとを学び、幅広く仕事ができるようになりました」と津田さんは語った。

**未来のACEへ
アドバイス**
先輩からの

私は小さなころからものづくりに興味がありました。高校に進学する前は「建築関係の仕事に就きたいな」と漠然と思っていましたが、実際は、地元にある塩釜高等学校の普通科に進学しました。

そして、高校生の時、物理で勉強した電気の流れや回路の仕組みに興味を持ったことや、両親にパソコンを買ってもらったことがきっかけで、大学でプログラミングを学ぼうと思いが現在に至っています。

普通高校に通うみなさんでも、ものづくりの仕事で十分活躍できるはずですよ。さまざまな可能性を検討して、専門的な知識が必要だと感じたら大学に進学する。こうして将来の就職先の選択肢の幅を広げることができるところが普通高校で学ぶ良さだと思っています。



同社の開発を担う技術部に所属する津田光太郎さんは、製品の設計などを行う。「自社製品の設計のほかに、社内で行う検査治具の設計も担当しています。これから、工場を組み立てを依頼していた検査治具の様子を見に行くところなんです」

検査治具とは、製品の寸法や性能などの検査を効率良く正確に行うため、その製品専用で作られる装置のこと。津田さんは、検査治具の組み立て現場に足を運び、作業の担当者と意見を交わした。

「製品の開発は、自分一人だけの力ではできません。会社内のいろいろな人の協力をいただきながら、スムーズに仕事が進められるように、上司や会社のみなさんとの「報・連・相」を大事にしています」

さまざまな作業を同時進行
一つ一つの経験をやりがいにつなげる

津田さんは、製品の開発スケジュールが記された計画書に従いながら、担当する複数の製品の設計や開発、機能の検証などの作業を並行して行っている。

「営業担当者からの依頼を受け、見積書に記載する費用を計算することもあります。さらに今年から、会社のホームページの更新も担当しているんです。忙しい毎日ですが、夢だった技術者の仕事に就くことができていると充実しています」と話した。

高校生の時、インターネット上で公開されているパソコン用のフリーソフトウェア

宮城製粉株式会社
 所在地 角田市島田字三島70
 TEL: 0224-61-2525
 http://www.miyagiseifun.jp/

代表取締役社長 後藤 浩一
 資本金 900万円
 設立 2009年5月
 従業員数 75人(2018年8月現在)
 事業内容 食品の製造・販売
 経営理念 体に良い食品へのこだわり



滅菌処理を終えた製品を検査工程まで運搬する



事務所のパソコンに向かってデスクワークを行う



製品を検査工程に送り、目視とセンサーによる最終検査を行う



パック詰め装置の操作パネルで設定を行い稼働させる



未来のACEへ 先輩からの アドバイス

工業高校の機械科で勉強していたため、食品業界への就職は、ほぼノーマークでした。でも、高校の先輩が就職していたこともあり、この会社へ見学をしたことで現在に至っています。自然に囲まれたのどかな場所に、国内トップシェアの製品を作る工場があったことを知り、とても驚いたことを覚えています。

地元には、みなさんがまだ知らない食品メーカーがたくさんあると思います。日頃から、どんな企業があるのか関心を持つことで、たくさんの方が活躍しているところ、オスメなのがある、スーパーなど食品を多く取り扱っているところ、アルバイトをしておくといい、地元の食品メーカーが作っているさまざまな食品を目にするチャンスが潜んでいます。

業界の一人として、より多くの方が食品メーカーに興味を持って、就職先に選んでくれたらうれしいです。

仕事 図鑑 CASE 04

業務スーパーの成長を支える 手ごろで美味しい食品

製造
いちじょう かずのり
一條 和則さん(32歳)
宮城製粉株式会社(角田市)



製造ラインの流れを読み
安心安全な食品づくりを意識する

レトルト食品の製造ラインで 安定した稼働を管理する

角田市内にある宮城製粉株式会社の第三工場で、大きな圧力釜から大量のレトルトカレーのパックを取り出す一條和則さんの姿があった。

「朝にパッケージに詰めたカレーを、この釜で滅菌処理を行います。この後、別の部屋に移動させて、最終検査と箱詰めが行われます」

同社は、業務スーパー向けに団子、草餅などの原料やミートソース、レトルトカレーなどの食品を製造している。急速冷凍

技術によって、国内初となるヨモギを使った製菓材料の冷凍製造に成功。一年を通じて質の高い製品の提供が可能となり、全国シェア4割を誇っている。また、一條さんが働く第三工場では、20種類以上のレトルト食品が製造されている。

「私の仕事は、製品のパック詰めをする機械を担当しつつ、良い製品が安全に作られているかについてライン全体を管理することです。ラインを流れる製品や設備の状態だけではなく、作業の効率や作業者の安全など、気を付けなければならぬことがたくさんあります」と説明する一條さん。

「最近、業務スーパーが世間で注目されていることもあって、ここで作っている製品がテレビや雑誌などで紹介されることもあります。有名なタレントさんが、私たち



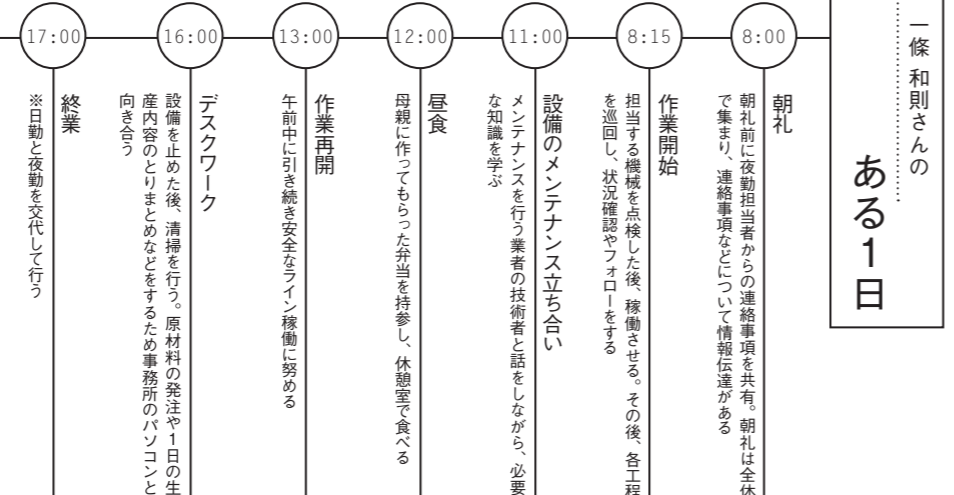
- 1 滅菌処理が終わったレトルトカレーのパックを圧力釜から取り出す一條和則さん
- 2 検査工程の担当者に声を掛け、作業の進み具合などについて話し合う
- 3 同社が手掛ける食品は、全国に業務スーパーを展開する株式会社神戸物産(兵庫県)に卸している。同社も神戸物産グループ企業の一員として、「食の製販一体体制」に貢献している

日々の成長が次のモチベーションの糧 先輩の指導にも努力したい

「手に職を付けてから安心して働きたい」と思い、白石工業高等学校の機械科で学んだ一條さんにとって、同社への就職の決め手となったのは、3年生の夏に行った応募前職場見学だったという。

「ちょうどヨモギを使った製菓材料製造の最盛期だったこともあって、工場内はとても活気にあふれていました。とても忙しそうにしている中で、みなさんが私に優しくあいさつしてくださり、『雰囲気の良い現場だな。自分もここで働いてみたいな』と感じました」

こうして、高校卒業後に同社に入社した



技の肖像



赤松まゆみさん。特殊な道具を使って革を型の底面につり込む

靴職人

「その人が欲しいデザインと、その人の足に合った心地よさ。両方とも満たす靴を作るのが私の仕事です」

仙台市内でオーダー靴を手掛ける赤松まゆみさんはそう話す。

靴づくりは、まず依頼者との「対話」から始まる。靴を使う場面や好みのデザイン、色などを聞き、どんな靴を作るかを決めたら、足のさまざまな場所を調べていく。

「採寸のほか、お客様の足に触れて骨格や筋肉の付き方も丁寧に調べます。それから靴を作るための型を製作します」

足の形は人それぞれ。左右で大きさが違う場合もあるという。型をもとに型紙を起し、革を裁断。パーツごとにミシンで縫製し、再び型に合わせて形を整える。こうして仕上げた靴の上の部分に靴底を貼り付け、「仮靴」を完成させる。

「仮靴はお客様に1カ月間試し履きしていただき、履き心地や気になる部分を確認してから、本番の靴を一から作り始めます。そのため、1足の靴を完成させるのに最短期間で3カ月は必要なんです」

シーズンごとに買い替えていたくらい靴が好きなのは赤松さん。「自分の足に合った靴がなかなかなくて、足の痛みを気にしていました。それなら、自分が欲しい靴を作っ

てしまおうと思いました」
こうしてデザイン系の大学を卒業後、東京で靴づくりを学んだ。その後は、靴の修理の仕事や靴工房で技術を磨き、2014年に仙台で独立した。

「出来上がった靴を履いて喜ぶお客様の笑顔は励みになります。一生靴を作り続けていきたいですね」と赤松さんは笑顔で語ると、再び静かに手を動かし始めた。



1. 型紙通りに裁断した革のパーツをミシンで縫い合わせる 2. 釘を打ち、靴の上部にあたる革と中底を止める 3. 大人が使うオーダー靴のほか、子どものファーストシューズの注文も受ける 4. 「世界に一つしかない靴を作り続けられるのがオーダー靴製作の魅力」と語る赤松さん

問い合わせ
注文靴屋カルツ

仙台市青葉区立町 21-5-103
「菅沼靴工房」内
TEL: 080-1857-1287
http://calz.sakura.ne.jp/



Report 技能士を育てる。

宮城県内の企業には、優れた技術を持つ多様な技能士が活躍する。宮城のものづくりを支える匠たちを、企業がどのように育て、技を伝えているのかを紹介する。

株式会社竜門園 (仙台市)

1974年創業。一般住宅の庭をはじめ寺社の庭園や街路樹などさまざまな場所の庭づくりと緑化に携わる。2004年にイギリスで開かれた世界最高峰のガーデニング大会で、最優秀賞を獲得。国内のコンテストでも数々の賞に輝き、高い技術が評価されている。

庭や公園などの緑地を作り維持管理をする造園業の仕事では、枝や葉を剪定するだけでなく、接ぎ木や肥料、石の施工や樹木の病気に関することなど、多くの知識や技術が必要である。

そのため、株式会社竜門園では、国家資格の「造園技能士」や「土木施工管理技士」など20種類以上の資格を持った職人が所属し、庭づくりの現場で活躍している。

「国家資格取得への挑戦は、職人にとって技術や知識を学ぶ貴重な機会の一つ。特に、技能検定では実技試験で竹垣や景石といった日本庭園の伝統様式が扱われているため、力を入れています」と齋藤健社長は話す。

同社では、受検希望者に対して、有資格者である先輩職人が実技指導を行っている。また、同社の展示場内に植栽されている樹木を用いて、樹種を判定する要素試験の練習なども行う。業界団体が開催する事前講習会の受講料の全額補助や、有資格者手当の支給などで会社が全面的にバックアップする。

齋藤社長は、「1級技能士の取得後も、さらに経験と実績を積んで登録基幹技能者の取得を目指します。こうして、樹木や造園の幅広い知識を持った一流の職人を育て、お客様の大切な庭づくりを手掛けています」と話した。

国内屈指の技が光る。造園のエキスパート

技能士 MEMO

造園技能士

造園に必要な知識や技術を持つことを証明する国家資格を有する者。検定試験は庭園を作成する作業試験と樹木の枝を見て樹種を判定する要素試験がある

登録基幹技能者

熟達した作業能力と豊富な知識、マネジメント能力に優れた技能者として、専門工事業団体の資格認定を受けた者。登録造園基幹技能者は、1級造園技能士の資格を持ち、実務経験10年以上、職長経験3年以上の者が認定講習を受講することで与えられる

企業情報

所在地: 仙台市泉区松森字前沼 48-2
TEL: 022-373-3934
http://ryumonon.co.jp/



事業内容: 住まいや緑に関わる企画・設計・施工・管理

技能士数: のべ14人(2018年8月現在)

技能職種: 造園



1 仙台城址内の樹木を剪定する1級造園技能士の早坂晋也さん。「庭づくりは、成果が目に見えて現れるので、やりがいを感じられる仕事です」と話す 2 技能検定・実技試験の様子。指定された区画内で、制限時間内に竹垣の製作や植栽などの作業を行う 3 代表取締役の齋藤健さん。「最近の一般住宅ではエクステリアの施工が多い。これまでの造園の知識のほかに、より住居に近い部分での施工に関する知識や技術が職人に求められています」と話す

女性大工への 挑戦を応援し サポートを 続けていきます



代表取締役
大場 江美さん

面接のときに首都圏からはるばるやってきた佐藤さんと初めて会った時から、大工職人になりたいという強い意志を感じました。そして、仕事を始めてからは、自分から学ぼうとする姿勢に、「職人」としての資質を垣間見ることができました。今後も、佐藤さんをサポートできるように、親方と相談しながら適材適所の家づくりを心掛けていきます。

建築業界では、大工職人の高齢化や人手不足が課題になっていて、佐藤さんのようなやる気のある若い職人さんは貴重な存在です。

昔より工具や工法もはるかに進化して、男女の力の差をカバーできるようになりました。同性として、建築業界で活躍する女性ももっと増えてくれたらと思っています。

株式会社サスティナライフ森の家

森を守り、木を育てることから始まる木組みの家づくりで、日本の伝統建築と地域資源を活用した持続可能な循環する暮らしを提案。木材はもちろん、家づくりに必要なさまざまな素材の安全性やトレーサビリティにも配慮している。

所在地／仙台市泉区福岡字西森下 39-13

TEL 022-725-2775

http://www.sustenalife.co.jp/

従業員数 18人 / 女性3人 (2018年7月現在)



もともと東京で英語教材を制作する会社で働いていた私は、休日に美術品や建築物を鑑賞するのが好きでした。歴史的な建造物や建築家が手掛けた建物まで、いろいろな建物を眺めるうちに、「もっと建築について勉強したい」と考えるようになりました。そこで、大工職人になることを決めました。

休日は、普段はなかなかできない部屋の掃除や洗濯を一気に片づけます。そして空いた時間でゆっくり読書をしながら、日頃の疲れを取っています。女性の職人は、まだまだ少ないですが、チャンスが全くないわけではありません。また、学生の時に建築について学んでいなくても、工務店などに就職した後、職業訓練所で働きながら知識や技術を学ぶことができます。チャンスをつかむためには、自分から一歩を踏み出すことが大切。これからも、一つでも多くの現場で仕事ができる機会を得て、家づくりを楽しみたいです。

休日は掃除と洗濯の 合間にゆっくり 読書をして 楽しんでいきます



「小説やミステリーなどを
読むことが多いのですが、
やっぱり建築関連の本も
気になってしまいますね」

大工職人の夢がかない 一つ一つの作業すべてが 喜びと幸せを感じる 瞬間です！



みやぎ ものづくり女子

木の家を作っています

株式会社サスティナライフ森の家
(仙台市)

さとう あさみ
佐藤 麻美さん



室内の扉や家具などの木工製品の製作や取り付けも大工職人が行うことがある

木造家屋の骨組みに使う材木を加工したり、現場で材木を組んで家の形にしたりする大工職人として働いています。材木を組むために、材木同士の接合部分には、「刻み」と呼ばれる加工を施します。材木を刻む目印を付ける「墨付け」をした後に、長さを継ぎ足すための「継手」や、角度をつけて組み合わせるための「仕口」を、ノミや鋸、電動工具を使って刻みます。

まだ大工職人になってから3年目なので、覚えなくてはならないことばかり。親方から教えていただいた材木の刻み方や組み上げる方法を一度で確実に覚えられるように、その日のうちに復習することを心掛けています。刻み方については、墨付けした材木に直接紙を当てて構造を書き写して記録しています。親方に教えていただき、私が担当するのは、床などになる土台の部分です。力仕事では男性と比べるとどうしてもかなわないので、できることとできないことがあります。でも、重い材料や道具の中には、工夫すれば運べるものがあるので、できる限り「よしよし」と気合を入れて持ち上げて仕事をしています。材木の加工場や家の建築現場で技や知識を身に付けてながら、それを仕事に生かしていく。夢だった大工職人になることができ、家づくりができる幸せを日々感じています。

あすを拓く

鉄よりも強く超軽量、多彩な特性で幅広い分野での応用が期待される。そんな夢の新素材が石巻で量産されているという。長年、開発に携わってきた研究者に「セルロースナノファイバー」の魅力聞いた。



日本製紙株式会社
CNF 研究所 所長
河崎 雅行さん

プロフィール
1961年、島根県江津市生まれ。1986年広島大学大学院理学研究科化学修士課程修了後に山陽国策パルプ株式会社に入社し商品研究に携わる。1993年十条製紙株式会社との合併で設立された日本製紙株式会社の中央研究所に配属。2016年に現職。CNF研究に10年以上携わり、開発と実用化に努める

植物由来も魅力の一つ
「オールジャパン」で実用化を進める

CNFは、木材から抽出した「パルプ」と呼ばれる植物繊維から生み出される。パルプから繊維を機械で細かくほぐす方法や、化学処理と機械処理を併用してさらに細かい繊維を取り出す方法がある。

中でも、東京大学の磯貝明教授らが発明した「TEMPO触媒酸化法」は、繊維幅3〜4ナノメートルの微細で均一なCNFを作ることができることから注目を集めているという。

「CNFは木を原料に作られていることから、天然由来でリサイクル性も高い。そして何より、日本にある豊富な森林資源を活用できることが、最大のメリットです」と河崎さんは言う。

そのため、政府は日本の成長戦略の一つに「CNFの利用促進」を盛り込み、実用化を後押しする。現在、国の強力なバックアップを得ながら、国内の製紙会社をはじめ、素材メーカーや医薬品メーカーなど多くの企業がCNF分野に参入している。とりわけ、実用化に力を入れているのが製紙会社だ。CNFは、紙の原料と同じパルプから製造可能なこともあり、各社が持つ技術を活用しながら、研究開発を進めているという。

「ITの普及によるペーパーレスが進み、紙の需要が大きく落ち込む中、弊社では木の新たな可能性を開拓するため、CNFを

はじめとした新素材の開発に力を注いでいます」と河崎さんは話した。

産学連携で製品開発 工業生産のノウハウを蓄積する

大学院で化学について学んだ河崎さんは、修士課程を修了後に製紙会社に就職。以来、紙の品質向上など、紙製品の研究開発に長年関わってきた。

CNFとの出会いは、木を活用した新素材の開発部門に異動した2006年のこと。CNFの共同研究の打診のため同社を訪れた磯貝教授との打ち合わせに、河崎さんも同席したことがきっかけだったという。

「当時のCNFは具体的な使い道も分からない未知のものでしたが、面白い素材だということ、私たちが研究に参加することになりました」

こうして、東京大学と民間企業3社によるCNFの研究プロジェクトが始まった。同プロジェクトでは、CNFが持つ酸素などのガスを通しにくい「ガスバリア性」に注目。包装用フィルムにCNFを応用することで、食品の酸化劣化を防ぐパッケージを開発した。

「私たちは、パルプからCNFを作り出す技術開発を担当しました。プロジェクトをきっかけに、石油由来の従来品に代わる環境に優しい新素材として、CNFへの手応えと期待が高まりました」と河崎さんは振り返る。

全国で生産設備が稼働 自動車への応用に期待が高まる

その後、さまざまな特性が明らかになり、CNFは夢の新素材として世界から注目されるようになった。

同社は、研究プロジェクトで培った知見をもとにCNFの量産を本格的にスタートさせた。2013年に、CNF事業推進室（現、CNF研究所）を立ち上げると、同年、CNFの研究プラントを岩国工場（山口県）で稼働させた。2017年には、石巻工場年間生産能力500トンの量産設備が稼働し、CNFの機能性シートを世界で初めて実用化。高い消臭・抗菌機能を持つヘルスケア製品の商品化につなげた。

「研究所でCNFを作る場合と比べ、使用設備の大きさも作る量も桁違いなこともあり、量産化に向けた研究は、新たな試行錯誤の連続でした」と河崎さんは話した。

現在、CNF研究所がある富士工場（静岡県）では、CNFを使った「ナノ複合材料」の研究が進められている。樹脂と上手に混ぜることで、軽量でありながら金属に匹敵する強度の材料となる。自動車分野をはじめ、家電や建材の材料としても期待が高まる。

「CNFの研究は、まだ発展途上です。残る研究生活の全てを捧げるつもりで、引き続き頑張っていきたい。そして、CNFが活躍する姿をこの目で見届け続けていきたいですね」と河崎さんは語った。

**セルロース
ナノファイバー
(CNF)**

機能性シート
フィルム・シート素材

機能性添加剤
増粘剤・乳化安定剤

ナノ複合材料
樹脂・ゴム等の補強材料

200nm

セルロースナノファイバーは、多様な分野での応用が期待される

セルロースナノファイバー（CNF）は、植物の繊維をナノメートル（＝100万分の1ミリ）単位まで細かくほぐしたものの。「軽量でありながら高い強度を持つ」「熱を加えても変形しにくい」など、さまざまな特性を持つ新素材である。

「この瓶の中には、水に1パーセントのCNFを混ぜています。ほぼ水であるにも関わらず、この通りドロドロした状態です」。日本製紙株式会社CNF研究所長の河崎雅行さんが、サンプルが入った瓶を手を持ち説明した。すかさず瓶を軽く振ると、ゼリー状だった中身が突然サラサラとした液体に変化した。

「静置したときの粘度が増すという特殊な増粘性を活用して、壁に吹き付けても液だれしない塗料や、肌塗る際にべたつかない化粧品などの開発が進められています」と河崎さんは話した。



紙の原料である木のチップ（奥）から取り出したパルプ（中）から作ったCNFを水に混ぜたサンプル（前）



石巻工場内で稼働する量産設備。TEMPO課題クリアを目標に、勝負の毎日が続いています」と話す



「ライバルは炭素繊維。コスト面などの



日本製紙株式会社
日本第2位の売上高を誇る製紙会社。エネルギー・バイオケミカル・食品事業などにも積極的に進出。「木」を幅広く活用し、さまざまな製品を生み出す総合バイオマス企業を目指す

■所在地
CNF 研究所：静岡県富士市比奈 798
TEL 0545-67-0281
石巻工場：石巻市南光町 2-2-1
<https://www.nipponpapergroup.com/>

若者と企業の出合いの場を創出 輝く企業の人財力向上プロジェクト 合同企業説明会

7月7日、転職・再就職希望者と平成31年3月卒業見込みの大学生等を対象とした合同企業説明会が、AER（仙台市）で行われた。製造業をはじめ、ITや福祉などさまざまな業界から県内に事業所や工場を持つ45社がブースを構え、参加者は企業の担当者から、事業内容や企業の強みなどの話を聞いた。

参加した専門学校生は、「事務関連の資格を持っているので、それを生かしたいと考えています。今回参加して、製造業にも事務系の仕事があることを知り、就職先の選択肢が広がりました」と話した。

同説明会は、県内中小企業の「人材確保」「職場定着」「魅力ある職場づくり」を支援する「輝く企業の人財力向上プロジェクト」の一環。説明会には、同プロジェクトで行われたセミナーを受講した企業も出展した。ある企業の採用担当者は、「売り手市場と呼ばれている中で新卒者や若い人材を確保するためには、求人への応募を待つだけではなく、積極的な仕掛けが必要だと感じています。今回の説明会は、セミナーで学んだことを実践する貴重な場です。十分に会社のアピールができるよう努力したいです」と話した。



参加者に自社の製品の魅力を語る企業担当者



参加者と企業の間で、盛んな意見交換が行われた

同プロジェクトの担当者は、「このプロジェクトを通じて、県内の中小企業のみならず積極的に計画的な採用活動を展開し、優秀な若い人材の確保につなげていってほしいです」と話した。

7月25日に田尻総合体育館（大崎市）で行われた説明会では、55の企業と団体、高校生427人が参加。生徒は希望する企業のブースに移動して企業の担当者から話を聞いた。

参加した生徒は、「企業のみならず、とても分かりやすく丁寧な説明をいただくことができました。地元にも、世界で使われている」と話した。



トヨタ東日本学園の学園生が優しく丁寧につくり方を教えた



テスト走行の様子。4本のクローラーを駆使して障害物を乗り越えた

工作を通じて「クローラー」の仕組みを知る トヨタ東日本学園 夏休み親子工作教室

7月21日と22日に、トヨタ東日本学園（大衡村）で恒例の「夏休み親子工作教室」が行われた。この日集

まった県内の小学生と保護者が、一般には「キャタピラ」の名称で知られるクローラー（無限軌道）で走

る「レスキューロボット」の製作を楽しんだ。児童は、同学園生の説明を聞きながら、4本のクローラーが装備された台車を組み立てた後、紙コップやウレタンなどの材料を使ったコックピットを自由に作り、レスキューロボットを完成させた。

テスト走行では、レスキューロボットが、障害物を楽々と乗り越えて進む様子を確認。ある児童は、「部品をネジで付けたところが難しかったけれど、ちゃんと完成してうれしかったです」と話した。

サポートを務めた学園生は、「子どもたちがががをするだけでなく、楽しく工作してもらえようように準備と試作をしました。最初は、子どもたちに分かりやすく教えることができなかった不安でしたが、作品の完成を喜んでくれたので安心しました」と語った。

同工作教室は、トヨタ自動車東日本株式会社（大衡村）と宮城県が主催で、今回で6年目の開催。

気になる企業の声を直接聞く 平成30年度高校生のための合同企業説明会

今年7月に、「平成30年度高校生のための合同企業説明会」が、県内6カ所で行われた。

7月25日に田尻総合体育館（大崎市）で行われた説明会では、55の企業と団体、高校生427人が参加。生徒は希望する企業のブースに移動して企業の担当者から話を聞いた。

参加した生徒は、「企業のみならず、とても分かりやすく丁寧な説明をいただくことができました。地元にも、世界で使われている」と話した。

同説明会は、宮城労働局ハローワーク、宮城県などが主催。ハローワークの担当者は、「高校生のみなさん



企業担当者の熱の入った説明を、生徒たちは真剣に聞いていた

中学生が将来の夢や目標について考える 平成30年度宮城県ネクストリーダー養成塾

8月3日から5日にかけて、「平成30年度宮城県ネクストリーダー養成塾」が、県庁と東北自治総合研修センター（富谷市）で行われた。同養成塾は、震災からの復興を支える次世代のリーダーを養成しようとして、県内の中学生を対象に講話やグループワークなどを通じて、自分の将来の夢や目標について考えるもの。7回目となる今年度は、52人の生徒が参加した。

4日には、東北大学サイエンス・エンジェルと株式会社セッションナブル代表取締役の梶屋陽介さんによる講話があった。

研究生活や理系進路選択の魅力や伝える活動を行う、東北大学の自然科学系部局に所属する女子大学生「東北大学サイエンス・エンジェル」の講話では、ミジンコや環境科学、地域



生徒の質問に答える東北大学サイエンス・エンジェルの3人



「多くの人や物に触れ、自分の器を大きくしてほしい」と語る梶屋さん

また、女川町で東北の素材や技術を使った新しいギター産業を展開する梶屋さんは、「成し遂げるために挑戦すること」と題して、起業までの経緯を説明した。梶屋さんは、「夢を追求して、実現するための志に変えることが大切。みなさんも夢のままで終わらせないで、やり遂げてください」とエールを送った。

学生と社会人がみやぎで働く魅力を考える Think! LOCAL 〜今、地方就職が熱い3つの理由〜

8月18日、将来地元就職を考えている学生に向けて、県内で活躍する社会人が地方で働く魅力を直接伝える「Think! LOCAL」が、エンスペー（仙台市）で行われた。

第一部の就職セミナーでは、株式会社Paier代表の羽山暁子さんが、「今、地方就職が熱い3つの理由」をテーマに講話を行った。

羽山さんは地方就職の魅力について、東京と比べて「ビジネスにつながる課題が多い」「プレイヤーが少なく活躍の場が多い」「通勤ラッシュなどのストレスが少ない」ことを挙げ、「変化し続ける今の時代を生きるために、独自性を生かすことが大切。地方はそのチャンスが多いところです」と強調した。

第二部では、羽山さんを



地方就職の魅力やメリットについて説明する羽山さん



多彩な経歴を持つパネリストの話に、参加者は熱心に耳を傾けた

はじめ、東京で就職を経験し、現在は県内で活躍している社会人3人によるパネルディスカッションが行われ、「最近の就活」「地方で働く」「東京で働く」など9つのテーマから、参加した学生が選んだ内容について討論が繰り広げられた。

同セミナーは、インターシップを通じて首都圏や県内の学生と県内のものづくり企業のマッチングを進める宮城県地方創生インターンシップ事業「MINT」の一環。参加した大学生は、「地方就職についてあらためて考える良い時間になりました。自分の目標を見つづけるため一旦東京で働き、将来的に地元に戻る、という選択も有効だと思いました」と話した。

「これからのイベント開催情報」 ぜひ参加してください！

○サイエンスプラス（ものづくり体験教室）
栗原地域の企業・学校などが連携して、楽しみながら学べるものづくり体験教室を開催します。今年も多彩な22のプログラムを用意しています。

【開催予定日】
日時／9月29日（土）10時～15時30分
場所／東北職業能力開発大学校
参加方法／当日受付（事前申込不要）
参加人数に限りのあるプログラムは、当日整理券を配布します。
問／022-211-2764
（宮城県産業人材対策課）
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sanzin/scienceplus.html>



○みやぎまるごとフェスティバル2018

「技きりり 味きりり みやぎのふれあい、ここにあり。」をテーマに、県内各市町村の特産品や農林水産物、工芸品の展示・販売を行います。親子で楽しめるクイズラリーや、県産食材と仙台味噌を使ったお振る舞い、ステージイベントも開催します。

【開催予定日】
日時／10月20日（土）・21日（日）10時～16時
場所／宮城県庁、勾当台公園、市民広場
問／022-211-2815
（みやぎまるごとフェスティバル実行委員会）
<http://manugoto2018.info/>